

■ 亀田ファミリークリニック館山（KFCT）

院長 岡田 唯男

1 2021年度の目標と方針

2021年度は引き続きコロナウイルス感染症の影響を受けるが、2020年度の経験をもとに地域の中核プライマリケア診療所として、高価値で包括的な診療を行い患者さんに求められる運営を行なっていく。各部門の目標は以下の通りである。

外来部門：地域包括診療料の算定患者の増加、コロナワクチンプロジェクトチームを立ち上げ、かかりつけ患者を中心に円滑で安全にワクチン接種を進める。

在宅部門：在宅2列化プロジェクトの安定化。全ての月で安定的に訪問診療担当医を確保する。サービス付き高齢者住宅と新規に契約を結び、利用者への定期訪問を開始する。

教育部門：総合診療・家庭医療の中心的施設としての発信（ホームページの充実・オンライン見学会・説明会の開催）、専攻医フルマッチ採用

リハビリ：総合実施計画書算定数を増加、オンラインを用いた医師との共同説明など連携を強化する

歯科：患者さま口コミ等拡大による外来診療患者数の増加

文責：岩間秀幸

2 2020年度評価（総括）目標の結果

2020年度コロナ禍により家庭医外来・歯科・リハビリ・在宅・透析の全部門において影響を受けた。特に外来では感染の懸念による受診控えやマスク・手指衛生の感染管理による感染症罹患の減少から、当番医受診・定期受診ともに患者が減少した。発熱対応のためのトリアージ・受診フローの作成や実行において仕事量が増大したが、非接触検温ソリューションの導入や電話診療の対応などを新規に開始することで感染対応を行いながら、診療を継続することができた。職員のコロナウイルス罹患により、受診数の大幅な低下をみたが院内でのクラスター発生は抑えることができ、職員の感冒罹患時にも院内でPCR検査を行える体制を作ることができた。その中でも収益面では中止となった市町村集団健診の対象者を個別健診として受け入れ前年比約8倍の健診を受け入れ、外来の主軸事業である地域包括診療料においても前年比から受診数を伸ばすことができた。

在宅部門では、特別養護老人ホーム明光苑との嘱託契約を結び、訪問診療担当医が訪問する形で利用者50名の管理を開始した。引き継ぎ時には前担当医師からの情報が十分に得られず、看護・介護との連携が困難な状況であったが医療用SNS（medical care station）を利用しての情報共有や夜間看護師不在時の対応フローなどを確認し、患者ケアの質改善ができ、徐々に重症度の高い利用者の受け入れや看取りも行えるようになった。在宅2列化プロジェクトにより患者受け入れを伸ばす予定であったが、5月に人員確保が困難だった影響から新規の受け入れ制限をせざるをえず、6月の訪問数低下に繋がった。通年での在宅での人員確保が重要であり、人員が安定した後半から訪問数が増加した。次年度以降も各月での訪問数を維持する工夫が必要である。

教育においては、総合診療専門医第1期生が修了した。新専門医制度への変更にあたり教育体制の変更や専攻医のサポートを強化した。受診数の低下から専攻医・初期研修医の経験数の低下が懸念されたが外部研修を制限し、診療体制の充実したことにより後半からは診療数を担保できた。集合研修も制限がかかる中であったがTeams, zoomといったオンライン学習環境を整えたことでリアルタイムの学習の共有だけでなく、録画機能を用いた時間差での学習も促せるようになり、ローテーション中での学習の利便性が向上した。リクルートにおいても、オンライン見学・プログラム説明会を他プログラムに先駆けて行い、これまで見学に至っていなかった対象へもプログラムの発信を行うことができた。内部・外部からの多数の専攻医の応募があり2018年プログラムディレクター変更した新体制以後でフルマッチ（診療所コース5名・病院コース2名）で採用した。

2019年の台風被害、2020年のコロナ禍とこれまで経験のない状況での運営となったが、個々の職員がレジリエンスを発揮して、対応に追われるだけでなく新規事業、運用に挑戦した。その効果が新年度に向けてプラスの変化として現れており、次年度以降も成長が期待される。

文責：岩間秀幸

3 診療実績

1) 外来

- ・年間外来受診者数 53,889名（月平均 4,491名）うち初診患者数 4.4%（KFCT新来率=ID作成 0.3%）
- ・地域包括診療料算定 986件/年（前年比+180件）
- ・乳児健診 145件/年、妊婦健診 延べ83件/年、ニコチン依存管理料 193件/年、外来栄養指導 35件/年
- ・主な検査：血液検査 5547件/年、心電図検査 486件/年、単純X線検査 1147件/年、超音波検査 630件/年

2) 紹介

- ・他院からの当院への紹介 年間132件（うち鉄蕉会内部37件）
- ・当院から他院への紹介 年間1259件 紹介率（紹介数/外来受診数）2.3%。約97.7%は当院で完結している。

3) 予防接種

- ・別項参照

4) 患者様の声

- ・患者さまの声（2020.4～2021.3）計5件
不満足・苦情 2件（診療：不満足1件 苦情1件）
要望 3件（設備2件、待ち時間1件）
- ・2020年度患者満足度調査結果
当院では毎年CQI（診療の質向上）委員会により満足度調査を施行している。
2020年度の結果の概要は以下の通りであった。

方法：当院外来(歯科、リハビリ、透析、夕診を除く)を受診した患者へ、自己記入式アンケートを配布し、回収箱で回収した。

期間：2020年9月7日(月)-18日(金)の2週間

回答総数:417名

とても満足/やや満足/どちらでもない/やや不満/不満 の5段階で評価。

	①とても満足	②やや満足	①+②
事務職員の言葉遣いや態度	66%	24%	89%
待合室へのご案内	63%	23%	86%
看護職員の言葉遣いや態度	73%	19%	92%
医師の言葉遣いや態度	76%	15%	91%
医師の知識や技術	67%	18%	85%
医師の説明のわかりやすさ	70%	19%	89%
診察時間の長さ※	57%	19%	78%
待ち時間の長さ	36%	24%	59%
待ち時間の対応	40%	22%	62%
受診しやすさ	56%	24%	82%
総合満足度	57%	29%	86%

※実際の待ち時間

30分以内：63.8%、31-60分:13%、61-120分：2.8%、121分以上：0.7%

40分以上の29名（7.0%）うち、13名が定期外来、16名がオープン外来の患者

5) 2020年度の主な活動

・外来ミーティング

2018年度より事務・看護・医師の担当者が定期的に集まり、外来システム・収益性・医療安全などの問題を話し合う時間を継続している。これにより各部署で問題となっていた課題について、横断的な視点から分析・対応できるようになり、緊急性のある課題だけでなく、中長期的な視点でのシステム変更について話し合うことができるようになった。

ミーティングの内容から、診療報酬や外来での加算に関するレクチャーや資料作成、病名登録漏れの対策、診察室や看護ブースの環境改善などに取り組んだ。

・看護部ミーティング

2018年度より看護部と医局で外来症例、事例の振り返りを月1回、第4木曜日に行っている。個別症例（トリアージの見直し、対応困難事例など）の共有、外来トリアージ事例の振り返りを定期的に行った。また2020年度からは新型コロナウイルス流行を踏まえ、発熱・上気道症状患者のトリアー

ジ、発熱症例の対応、院内PCR検査体制の整備などの感染予防対策に多くの時間を割き、持続可能で効果的な体制を構築することができた。

・インスリン導入支援体制の整備

医師および看護師の異動・退職などに伴い、インスリン導入事例について、十分な支援が行われにくくなっていた。そのため、医師と看護師の協働により、インスリン導入のステップおよび患者指導内容を明確にし、安全かつ効果的に外来でのインスリン導入を行える体制を気づくことができた。また、看護師においては担当する者に関わらず支援の質を担保するために、患者指導内容を標準化する取り組みを行った。

・特定健診など個別健診の受け入れ

新型コロナウイルス流行に伴い、周辺市町村（館山市・南房総市・鋸南町）の集合による総合健診が中止され、医療機関での個別健診となった。当院でも当該市町村からの個別健診の受け入れを行い、特定健診471件（2019年度60件）、検査結果連絡票（通称みなし健診）114件（2019年度57件）と大幅に件数を増やし、地域ニーズに対応することができた。

・新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルスの流行に伴い、感染予防対策、発熱患者の診療体制、院内PCR検査体制の3つの整備を行った。

①院内感染予防対策

診療における感染予防を目的に、入り口での検温、手指消毒、待合の整備（距離を維持するための椅子の配置、感染の媒介となりうる備品の除去など）、受付・診察室・検査室におけるパーテーション設置、マスク・ゴーグルなど個人感染防止具の徹底、定期的な拭き上げによる環境消毒などを導入し、感染予防に努めた。なお、検温業務の負担軽減を目指し、2021年2月よりAI検温システムを導入した。

②発熱・上気道症状を有する患者へのトリアージおよび診察体制の整備

2020年4月より院内トリアージ実施料の算定（300点）を開始した（年間1661件）。発熱・上気道症状を有する患者について、予約や受付時点で拾い上げ、駐車場の車内で待機してもらい、トリアージナースにより電話による問診とバイタルサイン評価を行った上で、医師による診察を行う体制とした。トリアージナースの問診においては、発熱、咳や鼻汁、味覚障害などの症状と、移動・接触歴、既往歴などについてトリアージシートを作成し、必要な情報を漏れなく確認できるようにした。医師による診察も、可能なかぎり電話による問診を優先し、発熱をきたす他の疾患を疑い、かつ身体診察が必要な場合に限り、院内に入らず患者が入退室できる感染室を利用して診察を行った。これにより、可能な限り新型コロナウイルス感染症が疑われる患者と、通常の外来患者および医療者が接触しないようにすることができた。

③院内での新型コロナウイルスPCR検査体制の整備

当院においては、当地の新型コロナウイルス感染症の有病率が高くなく、また感染防護具の希少さもあることから、一般の外来患者で新型コロナウイルス感染症を疑う者については地域の発熱外来へ紹

介する方針とした。しかしながら、透析患者、在宅患者、当院職員については、感染拡大予防のため検査閾値を低くして、院内でPCR検査を行う方針とした。検査頻度が低いこと、マスク・手袋・ガウン以上の感染防護具を使用することに慣れていないことから、感染防護具の着脱方法、PCR検査の実施手順、検体の保管方法などについて明確に示したマニュアルを作成し、標準化を行った。結果、検査実施頻度は低いものの、PCR検査を短時間で安全に実施することができた。

文責：河田祥吾

4 リハビリテーション科

当院では子どもから高齢者までの診療を担うため、リハビリテーション（以下リハ）診療の内容も多岐にわたる。脳血管、運動器疾患のみならず、近年は発達障害に対する支援を求められる。このため、知識のアップデートや他職種連携を図るべく、3つの勉強会/カンファレンスを定期開催している。

① 思春期勉強会：

毎月第2火曜日の朝、小学校～高校（主に思春期）の児童に関する様々な課題を扱う勉強会を行っている。事例相談、レクチャー、情報共有など様々な形式で行っている。地域の学校の養護教諭、スクールカウンセラー、教育委員会職員、セラピスト（OT/ST）、家庭医など平均10名前後が参加している。2020年度は新型コロナウイルスの流行を受け、オンラインとオフラインのハイブリッド形式での開催とした。当日のレクチャーなどを動画録画し、勉強会グループで公開することで、知識の共有を図った。

2020年度のテーマは「不登校について（7月）」「ネット・ゲーム依存症（8月）」「思春期の運動処方とスポーツ障害（9月）」「思春期の発達障害（10月）」「教育支援について（11月）」「いじめについて（12月）」「愛着障害について（1月）」「包括的性教育・LGBT（2月）」「スクールカウンセラーについて（3月）」を扱った。

② 小児リハカンファレンス：

毎月第4火曜日の夕方、幼児～小学校の児童に関する様々な課題（主に発達障害）を扱う勉強会を行っている。安房地域医療センターの小児専門医を囲む形での事例相談が多いが、レクチャー形式の時もある。当該事例の関係者の他、安房地域で働く保健師、学校教諭、養護教諭、保育士、セラピスト（OT/ST）、臨床心理士、家庭医など地域の療育に関わる職種が様々に集い、平均20-30名が参加した。

③ リハビリ勉強会：

毎月第3火曜日の昼休みにリハ部門のセラピストと医局で合同の勉強会を行っている。テーマは、当院で行われているリハの実働状況、家庭医療の概要、PT/OT/STの概要説明、福祉用具、運転能力評価プログラムについてなど多岐に渡っており、両部署で交互に担当し、相互理解を図った。

文責：河田祥吾

5 スポーツ医学科領域

長らく開設していたスポーツ外来（本院からのスポーツ医学科医師による外来）は2019年12月までで終了となり、家庭医外来にて種々の整形外科、スポーツ関連の疾患に対応する体制となった。なお、2020年10月より都内より、スポーツ外来・内科を専門とする上村医師が来院し、継続外来を開設した。トリガーポイント注射、筋膜リリースなど手技を要する症例の紹介・相談、医師・理学療法士合同での院内運動器エコー勉強会の開催している。

当院では、安房地域医療センターおよび亀田クリニックの整形外科・スポーツ医学科との間で患者を相互に紹介しており、画像精査や手術適応の相談や、当院でのリハビリテーションなどを行っている。

文責：河田祥吾

6 産婦人科領域

2006年の開院以来、家庭医および専攻医による妊婦ケアを亀田総合病院産婦人科のサポートのもと実践している。2020年度は週2回午前に妊婦健診・婦人科診療、週1回午後に産後ファミリー外来、週3回の子宮頸がん検診を行っており、当院の研修を修了し家庭医療専門医・産婦人科専門医の水谷佳敬医師、2020年11月より亀田総合病院産婦人科の末光徳匡医師の2名の指導のもと診療している。2020年4月1日～2020年3月31日ではのべ83件(2018年度 79件)の妊婦健診を行った。当院所属の助産師と連携し、妊娠・出産に関わる継続的な支援を行っている。また、婦人科診察では当院に定期通院している患者さんの様々な婦人科領域に関わる相談および診察を行なっている。産後ファミリー外来では、産後2週間・1ヶ月で、新生児と褥婦の診察をしている（2020年度 2週間・1ヶ月/6人・11人）。家庭医が関わることで、母子同時の受診が可能であり、また小児科・婦人科以外の領域の相談に、家族の変化や思いに寄り添った包括的な診療の提供を行っている。月1回マタニティカンファレンスとして産婦人科専門医と当院の産婦人科症例について共有を行い、診療の質の担保を行っている。2013年度から館山市、南房総市、鋸南町、鴨川市の子宮頸癌の施設検診を受託する指定医療機関となり、子宮頸がん検診を行なっている。2017年度より子宮頸がん検診を推奨するポスターの掲示を行い、2018年度より46名多い、計308例(館山市181例、南房総市111例、鋸南町13例、鴨川市3例)の検診を施行している。2018年度より亀田総合病院産婦人科からの要請により、安房地域医療センターでの人間ドックでの子宮頸がん検診（月2回）を開始している。

文責：近藤慶太

7 予防接種

ワクチン接種数：年間総本数 7,957本（月平均663本）

主な内訳（公費/自費ともに含む）：インフルエンザワクチン4333本、成人肺炎球菌ワクチン258本、ヒブワクチン355本、小児肺炎球菌ワクチン363本、4種混合ワクチン349本、BCGワクチン103本、MR（麻疹風疹）ワクチン207本、風疹140本、日本脳炎404本、二種混合(DT)ワクチン105本、水痘ワクチン264本、ムンプスワクチン237本、ロタウイルスワクチン（ロタリックス®）160本、A型肝炎ワクチン6本、B型肝炎ワクチン356本、ヒトパピローマウイルスワクチン(ガーダシル®)65本、三種混合41本など。接種本数のうち、インフルエンザワクチンが約54%を占めた。接種総本数は7957本

と、コロナ禍で2018年度よりは減少しているが、2019年度の7582本から比較すると増加を認めた。当院では家庭医としてあらゆる年代・ライフステージの患者様を対象としているため、扱うワクチンの種類も多岐にわたる。特に2021年7月現在任意接種であるムンプスワクチンについては、6年前からパンフレットなどを用い接種の推進を続けた結果、高い接種率が維持されている。また、風疹抗体価の低い世代への風疹抗体価検査を用いたクーポンを使用推奨することで成人における風疹の接種数が昨年度の105本から140本まで大幅に増えている。パンフレットなどを用いて子宮頸がんワクチンの啓発も継続しており、徐々に結果につながっており、昨年度17本から今年度65本と大幅増加につながった。亀田総合病院小児科・新生児科と連携を行い、当院での接種を希望する患者に対してパリビズマブ(シナジス®)の注射を実施、2020年度は25本の接種を行っている。

文責：濱田春樹

8 在宅

当院は、2020年度末の時点で常勤指導医7名と、複数人の後期研修医によるグループで在宅診療を行っている強化型在宅療養支援診療所である。がん患者の割合が多く緩和ケアを十分に提供していることから、2016年度からは診療報酬改定に伴い“在宅緩和ケア充実診療所加算”の算定を開始した（施設基準：過去1年間の緊急往診件数15件以上、自宅看取り件数20件以上、PCA導入2件以上など）。

同施設内の総合相談室、訪問ヘルパーステーションとの連携もあり、2006年度の開設以後、5-7割と高い自宅看取り率を維持している。

毎月第2、第4水曜日に、緩和ケアカンファレンスと称して、亀田総合病院（以下KMC）の緩和ケア科、在宅医療部の医師に、終末期の症状緩和の方法や、鎮痛薬の使い方、代理意思決定支援などの事例相談を行っている。毎週水曜日に、ARMECカンファレンスと称して、安房地域医療センター（以下ARMEC）総合診療科の医師と、在宅から入院になった事例の経過や、退院計画の相談、新規で訪問診療導入を検討している方について情報共有を行なっている。毎月第4月曜日に、訪問看護ステーションおひさまの看護師と、療養方針や家族対応などの困難事例について情報共有、相談を行っている。

2018年度に重症乳幼児在宅事例の受け入れを開始している。更に2020年度から特別養護老人ホーム館山明光苑の嘱託医を担い、入所者50名の健康管理を行っている。

<新規導入件数>

2020年度の訪問診療新規導入患者は、計47件、うち悪性腫瘍20件（43%）であった（新規導入患者数：2014年度59件、2015年度62件、2016年度53件、2017年度55件、2018年度72件、2019年度41件）。

主な紹介元となるKMCやARMECと遠隔会議の実施や連携に努めた結果、当院在宅の認知度が高まったことも大きく関与していると考えられる。

<紹介元>

2020年度は、KMCから13件（28%）、ARMECから6件（13%）、KFCT内から25件（53%）、その他3件であった。KMC、ARMECからの紹介が41%を占めている。

KFCTの外来からの在宅導入事例が増加している。将来的に在宅診療を見据えた外来紹介が増えたことが一因と考えられる。県内の関連病院以外の施設からの紹介が徐々に増加しており、地域における当院在宅の認知度が上がった可能性がある。

<訪問件数>

2020年度の定期訪問件数は年間計1083件（最高は12月で103件、最低は6月で77件、平均90件/月）であった。（2019年度は年間1276件）。

日中を含む臨時訪問は年間計120回（最高は3月で14件、最低は4月、10月で6件、平均10件/月）であった（2019年度は年間136件）。

<看取り>

契約終了（死亡、入院、入所、外来復帰を含む）は計43件であり、そのうち死亡による契約終了は35件（うち悪性腫瘍患者20件）であった。

契約中の患者で在宅看取りを行ったのは25件（施設2件含む）（在宅看取り率71%）、うち悪性腫瘍患者における在宅看取りは13/20件（65%）であった。

また比較的終末期の管理が難しいとされる呼吸器疾患の看取りが2件あった。

外来通院への復帰が1件あり、在宅の適正利用を目的とした定期的な見直しが奏功した。

（参照）

在宅看取り率＝在宅看取り件数÷契約中に死亡した全患者

悪性腫瘍患者の在宅看取り率(2006-2012)＝在宅看取りした悪性腫瘍患者÷契約終了した悪性腫瘍患者

悪性腫瘍患者の在宅看取り率(2013-)＝在宅*看取りした悪性腫瘍患者÷契約中の死亡した全悪性腫瘍患者

*：療養施設を含む

<遺族ケア>

遺族のケアを行うため、2008年よりグリーフカードの送付を行なっている。カードは手書きで作成し、看取り後2ヶ月を目安にご家族に送付している。

上記に加えて、悲嘆反応（グリーフ）のケアを行うため、2018年度から亀田総合病院 疼痛・緩和ケア科所属のチャプレンを指導に招き、遺族ケア外来を立ち上げた。（別記載の外来を参照）

文責：久保伸貴

9 透析

2021年6月末現在、透析室はベッド数23床、患者数31人（随時随時透析の受け入れあり）、週6クル（月・水・金：午前、火・木・土：午前）で運営されている。

のべ透析回数は、2020年度 4,915回（2019年度 5,606回、2018年度 5811回、2017年度 6,083回、2016年度 6815回、2015年度 6,977回、2014年度 6,537回、2013年度 6,936回、2012年度 7,151回、2010年度 7,444回、2008年 5,769回、2007年度 2,931回）であった。

2016年8月よりオンラインHDFを開始しており、現在は24台すべてオンラインHDFに対応した機器を備えている。

透析に関する検査項目を、定期採血として月2回確認している。また亀田総合病院から週1回腎臓内科専門医が来院するため具体的な相談を行うと共に、勉強会を月に2回定期的に行い、ガイドラインの確認や新規薬剤の情報共有、個々の症例について貧血、CKD-MBD、体重のコントロールなどの検討を行っている。

透析の質評価の項目以外にも、癌検診、予防接種など健康維持増進の取り組みについて、2014年より看護部と協力したシステム構築を行っている。2018年度より予防接種の積極的な推奨を行った。プレベナー、帯状疱疹、MR、B型肝炎について、対象者に個別で接種を推奨している。透析患者は総じて動脈硬化リスクが高いため、2018年度より年1回のABIの測定をしている。また、急変リスクも高いため、Advance Care Planning (ACP) の一環として毎年1月にコード確認書の記載を行っている。

文責 金久保祐介

10 医師会受託事業

		2018年度	2019年度	2020年度
館山市	4ヶ月乳児健康診査	3	2	3
	1才6ヶ月乳児健康診査	4	5	6
	3歳児健康診査	4	4	3
	総合検診（特定健診）	4	0	0 ^{*2}
南房総市	4ヶ月乳児健康診査	0	0	0
	1才6ヶ月乳児健康診査	2	3	1
	3歳児健康診査	1	0	1
	総合検診（特定健診）	6	2 ^{*1}	0 ^{*2}

*1 台風被害のため中止となった回があった

*2 新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となった

文責：岩間秀幸/粕谷奈美

11 教育、研修部門

1) 修了生

2021年3月に19期生の5名（高島、濱田、近藤、久保、高岡）が3年間の後期研修プログラムを修了した。家庭医診療科の研修修了生は合計18期51名となった。

2) シニアレジデント

2020年4月に第21期生4名を採用し、2020年度は合計13名のレジデントが在籍した。

3) フェロー

外部病院より2名を採用し、レジデント修了者4名と併せて合計6名が、フェローとして在籍した。

4) ジュニアレジデント

当院は亀田総合病院地域ジェネラリストプログラムの必修研修の場となっている。1年次4名、2年次4名の合計8名が当院で研修を行い、1ヶ月ずつのローテーションと、月2回半日の外来研修（ハーフ

デイバック)を継続して行った。また亀田総合病院その他のコースの初期研修医10名のローテーション研修を、1ヶ月ずつ受け入れた。

5) 見学、研修生

後期研修医を秋田大学アカデミック家庭医療・総合診療医育成プログラム (FMGIM-AU) から1名 (2019年より2年)、東京城東病院 総合診療専門研修プログラムから1名 (1年)、千葉大学医学部附属病院総合診療科後期研修プログラム (家庭医療コース) から1名 (6ヶ月) 受け入れた。

外部からの見学、視察は以下の通り：

	2018年度	2019年度	2020年度
医師	4	12	3
後期研修医	10	5	4
初期研修医	26	21	8
学生	21	21	18
学生 (2週間以上の臨床実習)	1	0	0

文責：岩間秀幸/粕谷奈美

12 研究部門

学術関係の記録を参照のこと。

13 スタッフ

現在のメンバーの概要を以下に示す。経歴、資格、役職などは当院のホームページを参照されたい。メンバーは計23名+非常勤12名 (2020年7月現在) である。

■ 部長

岡田 唯男 (院長兼任)

岩間 秀幸 (12期生) (副院長、プログラムディレクター兼任)

■ スタッフ

医員 田島明野 (14期生) 在宅、透析部門統括

医員 河田祥吾 (18期生) 外来、教育部門統括

伊藤彰洋 (ファミリーメディスン株式会社、非常勤)

松岡角英 (ふさのくに家庭医療学センター、非常勤)

川島かおる (非常勤)

吉田賢史 (みその生活支援クリニック、非常勤)

織田暁寿 (ホームクリニック柏、非常勤)

塩田正喜 (河北ファミリークリニック南阿佐ヶ谷、非常勤)

高橋亮太 (ホームクリニック柏、非常勤)

上松東宏 (豊田地域医療センター、非常勤)

安藤崇之（慶應義塾大学病院、非常勤）

坂井雄貴（ほっちのロッヂ、非常勤）

宮本侑達（非常勤）

上村公介（順天堂大学医学部附属順天堂医院、非常勤）

■フェロー（8名）

◎リサーチフェロー

鵜飼万実子（16期生） 外来、教育部門統括

金久保祐介（18期生） 在宅、透析部門統括

◎マタニティフェロー

進藤達哉 在宅、透析部門担当

◎FDフェロー

高島大樹（19期生） 在宅、透析部門担当

濱田春樹（19期生） 外来、予防接種部門担当

久保伸貴（19期生） 在宅、透析部門担当

近藤慶太（19期生） 外来、マタニティ部門担当

■後期専門研修医（3年間、11名）

20期生 塚原麻希子、栗原史帆、西明博、山田有統

21期生 田坂真哉、手銭駿、菊地真由、堤俊太

22期生 吉羽史織、篠崎萌、山田真子、高橋慎太郎、田代直寛、中島浩一、岡田佳子

■非常勤

小原まみ子（腎臓高血圧内科 コンサルタント）

市河茂樹（小児科 コンサルタント）

■初期研修（8名）

（地域ジェネラリストコース10期生）

齊藤聡大、長嶋友希、西方一将、森川敬太

（地域ジェネラリストコース11期生）

金井祐樹、河邊健人、山田壮史、五藤沙也香

■出向スタッフ

菅長麗依 幕張クリニック

水谷佳敬（9期生） さんむ医療センター

吉澤瑛子（11期生） 亀田京橋クリニック

濱井彩乃（11期生） 安房地域医療センター

張耀明（14期生） 新島村国民健康保険本村診療所

文責：岩間秀幸/粕谷奈美

当院は教育プログラムを有し、研修医が多く、他施設からの研修生も多く受け入れている。これにより院内は活性化し、常にお互い学び合う文化の醸成と患者ケアの質向上に邁進している。

<後期研修プログラム>

「亀田家庭医総合診療専門医プログラム」は、2013年度より正式に4年プログラムとなった。日本プライマリ・ケア連合学会の後期研修プログラムとして登録し運用しており、毎年3-4名の後期研修医を採用してきた。2018年4月からの新専門医制度の開始に合わせて、安房地域医療センターと連携し6名の定員に増員した。プログラム要件として、内科、小児科、救急などの経験が要求されており、亀田総合病院・安房地域医療センター・さんむ医療センター等の各科の協力を得て教育・運営を行っている。他、腎臓内科、産婦人科、在宅医療、リハビリテーション、緩和ケア、スポーツ医学などの各科を研修し、KFCTでの外来・訪問診療・透析の業務に携わっている。

<フェローシッププログラム>

- ・KFCT FD (faculty development) フェローシッププログラム(1-2年間)
- ・General Practitioner with Special Interest(以下 GPwSI) fellowship(1-2年間)

の2つのフェローシッププログラムを提供しており、2018年度からはResearch fellowship program(リサーチフェロー)を開始した。

2020年度は金久保・河田(診療所コース)伊豆倉・常石(病院コース)がFDプログラムに参加した。家庭医療・Teaching improvement・Academic and Career development・Leadership and management・Researchの5つの要素について月1回small discussion形式で実践的に学習した。研修修了判定は口頭試問およびOn the jobでの評価で行い、全員が合格し修了した。FDプログラムから、性の多様性教育プロジェクト、プライマリケアメンタルヘルス研究、コロナウイルス感染症対策プロジェクト(診療・ワクチン)、POCUS勉強会、病院総合医教育プロジェクトが生まれた。専門医試験はコロナウイルス感染症対策のため翌年に延期となった。

<初期研修医教育>

地域ジェネラリストプログラムの初期研修医を、1ヶ月×2回のローテーション研修、月2回半日の外来研修で受け入れている。他、骨太プログラムの研修医のローテーション研修の受け入れも行っている。

坂井(17期)、安藤(ARMEC)、吉澤を中心に初期研修プログラムの再検討が行われ、研修プログラムを改善した。具体的には、指導資料やローテーションの心得、外来での決まりごとなどを整備、メンターによるサポートの質の担保、家庭医療のコアについて振り返り、ビデオフィードバック等を定期プログラムに組み込んだ。またレジデントデイへの参加など、教育体制を強化しており、初期-後期の研修の連続性を重要視している。

<勉強会・カンファレンス>

院内医師向けの勉強会としては、「AFPカンファレンス」「患者共有カンファレンス」「マタニティカンファレンス」「ポートフォリオ勉強会」などがある。

院内多職種での勉強会として、「透析カンファレンス」「在宅カンファレンス（デスクンファ・シェアカンファ）」「リハビリカンファレンス」を行っており、各種業務に関連し活発な議論を行っている。

院外も含む多施設・多職種の勉強会では、「小児リハビリカンファレンス（特別支援学校やマザーズホームの職員、養護教諭が集まり、発達障害児について情報共有を行う）」「思春期勉強会（養護教諭が集まり思春期の生徒について扱う）」を主催している。

<グラウンドラウンド>

2020年より月1回、第4木曜日の午後、院内委員会に合わせて専攻医の教育、多職種との交流を目的にグラウンドラウンドを開始した。この中では、専門研修に必須となったビデオフィードバックやポートフォリオ勉強会の他、看護部との合同ミーティング、ショートレクチャー、発表会などを行っている。

<レジデントデイ>

他科ローテーションで院内レクチャーやポートフォリオ勉強会に参加できないというレジデントの声を反映させ、2015年より年3回土曜午後の時間に全専攻医が集まって学んでいる。岡田院長のレクチャー、外来ビデオレビュー、拡大ポートフォリオ等を行った。

ディスカッションを中心に家庭医療学を深く学び（Deep learning）、終了後は懇親会を行って日常の悩みや課題を学年を超えてサポートしている。岡田院長レクチャーからはプライマリ・ケア学会の夏期・冬期セミナーの題材となる新たな亀田家庭医の強みとなるコンテンツが生まれた。

<メンター制度>

2015年度より導入していたメンター制度を2016年5月より本格的に開始した。専攻医1人1人に上級医が年間を通してメンターとしてつく通年メンターを設定した。メンターは月1回以上、学会の研修手帳を用いて振り返りを行いながら学習目標や到達度の確認を共に行い、また日常生活で困っていることの相談があった。定期的に専攻医から指導医へのフィードバック体制を設け双方向性の指導としている。

<多職種の教育>

医学生、看護学生、リハビリテーション療法士の学生など、多くの研修者が来院する。この際、各部署内での教育に加え、他の職種の職場でも研修し、学生時代から多職種連携を学ぶ機会を提供している。

文責：岩間秀幸/粕谷奈美

看 護 室

（準備中）

訪問看護ステーション館山

1. 2020年度について

2018年度11月末をもって当事業は一時休止となる。

リハビリテーション室

(準備中)

事務室

1. 2021年度の目標及び方針

【医 事】

- 1) 財務の視点
 - ・ 査定率0.15%以内に留める。
- 2) 顧客の視点
 - ・ 医事担当職員間でお互いの患者対応の評価を行い接遇の向上に繋げる
- 3) 内部プロセスの視点
 - ・ 紙レセプト廃止に向けて保険請求業務の年間スケジュールを見直し、労力・時間・経費の削減に努める
- 4) 学習と成長の視点
 - ・ 事務室内での勉強会を定期的で開催する。また、年1回の診療報酬の必修研修を受講し、専門知識の向上に繋げる。

【総 務】

- 1) 財務の視点
 - ・ 年間当期純利益実績値について、予算比90%以上を目標とする。
- 2) 顧客の視点
 - ・ ご意見内容の苦情について、前年比減を目指す。
- 3) 内部プロセスの視点
 - ・ 施設の整備及び維持・管理に努める。
- 4) 学習と成長の視点
 - ・ 職員研修手帳の研修必須単位の取得を目指す。

【経 理】

- 1) 財務の視点
 - ・ 収益・費用の適切な計上
- 2) 顧客の視点
 - ・ 院外通信の発行（K-ファミクリ通信）：患者さま向けの冊子
- 3) 内部プロセスの視点
 - ・ 立替金の速やかな精算
- 4) 学習と成長の視点

- ・職員研修へ参加し、年間目標を達成する。

【診療補佐】

1) 財務の視点

- ・訪問診療を担える医師が昨年度より2名減少したが、診療枠の80%以上の維持を目標とする。

2) 顧客の視点

- ・医師管理業務（人事・研修実績・資格・リクルート等）を強化する。

3) 内部プロセスの視点

- ・亀田総合病院 診療部事務室や安房地域医療センター 診療部事務室との情報共有を推進する。

4) 学習と成長の視点

- ・必須研修（医療安全・感染管理など）へ参加する。

2. 2020年度評価

【医 事】

1) 財務の視点

- ・年間査定率0.18%であった為目標を達成できなかった。
- ・査定項目は詳細に分析し、事務室内にて掲示・医師へ伝達し共有した。

2) 顧客の視点

- ・毎朝チェックリストを活用しダブルチェックを行った。
- ・毎月のミーティングで改善箇所の振り返りを共有した。

3) 内部プロセスの視点

- ・関連事業所の医事課や情報システム部からの電子メール・電話での連絡により、情報・仕様を確認し、その都度事務室内で共有した。

4) 学習と成長の視点

- ・インターネットを活用し必要な情報を収集したが、それだけでは不足であった。
- ・定期的に事務室内での勉強会を開催し専門知識の向上につなげられた。

【管 理】

1) 財務の視点

- ・年間経常利益は、予算比△49%とコロナ禍の影響にて大きく未達成となった。

2) 顧客の視点

- ・苦情・不満足・要望について、2019年度7件に対して5件と減少となったことから達成と思われる。

3) 内部プロセスの視点

・2019年台風15号の復旧及び補助金事務作業も完了した。概ね達成したと思われる。

4) 学習と成長の視点

・一部の必須研修について受講できずに未達成となった。

3. 業務紹介及びスタッフ数（2021年3月31日現在）

1) 業務紹介	2) スタッフ数 計17名
①受付・会計業務	①医療事務業務 9名（定時職員2名含）
②レセプト請求業務	②外来補助事務業務 1名
③予約受付業務	③総務事務業務 1名
④クリニック統計業務	④経理事務業務 1名
⑤総務業務	⑤診療室事務業務 1名
⑥経理業務	⑥施設・運転管理業務2名（定時職員1名含）
⑦医局業務	⑦清掃業務 2名（定時職員）

文責：佐藤直人

歯科センター

1. 2021年度目標

1) 財務の視点

新規患者数、月55件以上を目指す。

2) 顧客の視点

患者識別、ご意見内容の苦情について、前年比減を目指す。15件以下

3) 内部プロセスの視点

手指衛生遵守率80%以上を達成する。

時間外労働時間30時間未満の推進

4) 学習と成長の視点

医療従事者に求められる研修会や勉強会に積極的に参加して個人の成長を図る。

2. 2020年度総括

1) 財務の視点

新規患者数、月60件以上を目指したが、コロナ窩で緊急事態宣言時、月42件、その他、58件、年間平均、月51件だった。

2) 顧客の視点

患者識別94.3%、ご意見苦情について、15件あった。

3) 内部プロセスの視点

手指衛生遵守率70%を目指したが、86.8%達成

5S（整理、整頓、清掃、清潔、習慣化）の徹底、使用器具の選別し、基本セット5本から、3本に変更し、滅菌機械の使用が日に3回から2回に減少した。

4) 学習と成長の視点

必須研修、院内勉強会、研修会の受講率は100%

3. スタッフ構成

歯科医師数：常勤2名 非常勤8名

歯科衛生士：常勤5名 非常勤2名

受付事務：常勤1名 非常勤2名

歯科技工士：1名

4. 診療内容

ユニット・チェア数8台、カウンセリング室、小手術用オペ室完備。

一般歯科：虫歯や歯周病の治療、義歯など補綴物の作成

小児歯科：子供の歯科治療

矯正歯科：歯並びの治療

口腔外科：外来処置が可能な外傷、炎症、腫瘍。顎関節症、鎮静下での歯科治療。

デンタルインプラントなど

審美歯科：ホワイトニング、ラミネートベニア、オールセラミック

5. 診療実績：

再生療法4症例、インプラント4症例、埋入総数は5本であった。

6. 教育

ドクターカンファレンス

歯科センターとして歯科医師個人としての診断や治療計画の立案および治療手技の向上を目的として月2回火曜日に症例検討会を行い、積極的に意見交換や確認を行っている。

スタッフミーティング、スタッフ一同働きやすい環境作りと患者さまの満足度を上げることを目的として月2回火曜日に歯科衛生士、助手および技工士にて日々の問題点を抽出し、検討している。

文責：小澤重人

委員会活動

2011年度からクリニック内の部署を超えた横断的連携を目的とし、月1回1時間の委員会活動が開始された。

各委員会の名称と活動内容、実績は以下のとおりである。

医療安全管理委員会

1 委員構成

委員長 河田 祥吾

副委員長 小藤田 吏絵

委員 計 9名(うち1名は年度途中まで)

2 委員会開催回数 9回 (毎月第4木曜日16時より)

3 活動実績

○毎月各部署で発生したインシデント(レベル2以上)の内容、対応策の確認

- ・検体検査に関連したインシデント(取り間違い、取り忘れなど)
- ・レントゲン検査に関連したインシデント(撮影部位間違い)
- ・外来リハビリ関連したインシデント(患者・セラピストの怪我など)

○KFCT内医療安全巡視実施(令和2年8月27日)

○医療巡視活動の前後評価webアンケート 年2回(8・10月)実施

○AED・除細動器・救急カート・ストレッチャーの設置場所を各部署内で確認

○診察券に貼られるシールの意味の一覧の作成 各部署で掲示

○コードブルー対応電話機の動作確認、操作ガイド作成

○医療安全研修会(オンライン研修、全部署にて参加確認済み)

- ・必須研修第1回:医療安全職員研修「医薬品副作用被害救済制度」
- ・必須研修第2回:医療安全職員研修「院内活動報告会」
- ・その他:診療用放射線の安全利用のための研修

4 申送事項

○インシデントフォローアップ(レベル2以上)の議事録記載(医療監視で指摘あり)

○医療安全アンケートに基づいた職場改善の実施

○医療安全職員必須研修の自主開催の検討(案:code blue発信、AED操作)

- ・年2回(6月、12月)の防災訓練の残り時間30分を利用可能

○院内code blue/BLS対応(2021年度 医局・看護部では通年のトレーニング予定)

- ・コードブルー対応電話機の動作確認、操作ガイドなどの改善も行う

○医療機器関連について

- ・ブザーなど医療機器/設備の動作確認(教育と実施)、作動時の対応方法の周知
- ・2020年度 リハ確認済み、看護部は確認体制未確立

○行方不明者対応フローの確認、修正、周知

https://kameda.sharepoint.com/:f:/s/kamedagroup/KFCT/EoQf35WK8_1FsPw58ZcpgaYB5jNom4hCkyaXaqSeS871eA?e=35gVTC (フォルダ内に過去資料あり)

○転倒予防

- ・転倒リスク高くない人の診察券シールの周知

・転倒リスク高くない人の転倒事案への対応検討（転倒予防システム、転倒しても安全な設備は検討事項）

感染管理委員会

（準備中）

防災委員会

1 委員構成

委員長 福原 卓

副委員長 加藤 由美

委員 久保伸貴、田坂真哉、西明博、山口和子、渡邊務、畔上沙希、間宮庄治、
長谷川和江、大井美紀 計11名

2 委員会開催回数 10回（毎月第4木曜日16時より）

3 活動実績

- (1)防災訓練の計画及び実施
- (2)地震・津波マニュアル作成(亀田カイゼン・アワード提出)
- (3)消防設備の院内自主点検
- (4)津波避難先の確認
- (5)災害対策のための備蓄品の確認
- (6)自衛消防隊組織図の更新

4 申送事項

- (1)津波・津波対策マニュアルの更新
- (2)津波避難訓練実施の検討
- (3)防災訓練同日の急変時対応勉強会開催を医療安全管理委員会と協議

地域広報委員会

活動内容

①院外報の発行 年5回（5月・8月・10月・1月・3月）

予定通り発行

②ホームページの内容確認

それぞれの部署で内容をチェックし、現状と違っているものなどを訂正した。

③健康教室の開催

コロナ禍のため開催せず。

④ホットラインカードの管理

各部署で奇数月に確認して補充できていた。

⑤健康川柳の応募・展示

コロナ禍のため、患者からの応募ではなく、院内スタッフに依頼して、パブリックに展示した。

⑥院内ポスターの作成

昨年度から準備し完成したため、パブリックに掲示した。

CQI委員会

1 委員構成

委員長 鈴木千恵子（看護室）

副委員長 仲山久美子（看護室）

医局 高島大樹 渡部健 手銭駿

リハビリ 東拓弥 中平智子

歯科 佐久間華奈 仲村由紀子

事務 粕谷奈美 平山愛理（佐藤直人）

2 委員会開催回数 10回（毎月第4木曜日16時より）

3 活動実績

4月 年間活動計画立案

5月 職員満足度アンケート立案・作成

7月 職員満足度アンケート実施

8月 職員満足度アンケート結果考察（途中）

9月 患者満足度アンケート実施（医科外来・歯科センター）

集計・結果考察（歯科センター）

外来ソファ新調・レイアウト変更

待合室テレビ設置

医科外来問診票改定

10月 患者満足度アンケート実施（リハビリセンター）集計・結果考察

11月 ブックギフト寄贈の本を看護休憩室に設置

2月 職員満足度アンケート結果分析（最終）

3月 医科患者満足度アンケート結果・考察

今年度の振り返り及び次年度引継ぎ事項 まとめ

※通年の活動として、患者体験からの意見聴取

4 申し送り事項

ブックギフトからの本・雑誌を他部署へ貸出し

医科待合室のテレビモニターに映す内容の検討

医科待合室の椅子の新調

患者満足度アンケート時の感染対策

催事・レク委員会

1 委員構成

委員長 高木奈央子

副委員長 川崎隆

委員 計12名

2 委員会開催回数 10回（毎月第4木曜日16時より）

3 活動実績

今年度は新型コロナウイルスの流行状況に伴う感染対策を取りながら催事を計画・実施（中止）をする必要があった。そのため、例年通りの催事は実施出来なかったが、催事ごとに十分に協議を行い、必要な活動は出来た。今後はリモートで催事を行う可能性もあると思い、委員会内でリモートのレクチャーも行うことが出来た。

4 申送事項

令和3年度新人歓迎会の日程を、4月の委員会の時に決めて下さい。

衛生委員会

1 委員構成

委員長 渡邊結花

副委員長 神田圭輔

委員 山田有統、荒牧奈緒美、佐藤直人、鈴木路子、湊貴三子、
高川幸恵

産業医 高橋亮太

衛生管理者 岩間秀幸 計10名

2 委員会開催回数 12回（毎月第4木曜日16時より）

3 活動実績

- (1) 活動目的の共有
- (2) 活動計画の共有
- (3) 産業医の指定、衛生管理者の指定
- (4) 衛生委員会の開催
- (5) 職場巡視の実施
- (6) 法人労働安全衛生委員会事務局との情報共有

4 申送事項

まだまだ続くコロナ禍の影響の中で、健全な労働環境や職場環境の維持・改善について、臨機応変に対応してもらいたい。

学 術 関 係

1) 原著論文 (Original Articles, Refereed Articles, Systematic Reviews)

1. Akihiro Shiroshita, Hiroshi Shiba, Yu Tanaka, Akihiro Nishi, Kenya Sato, Chigusa Shirakawa, Yuki Kataoka. Effectiveness of Steroid Therapy on Pneumonic Chronic Obstructive Pulmonary Disease Exacerbation: A Multicenter, Retrospective Cohort Study. International Journal of Chronic Obstructive Pulmonary Disease. 2020 Oct 19;15:2539-2547.

2) 出版 (分担執筆、翻訳も含む)

1. 鶴飼 (相田) 万実子. リハビリテーション「あとはリハだけ」では芸がない、リハはあなたと療法士との協働作業. 病院家庭医 新たなSpeciality. 2020年4月 南山堂
2. 濱井彩乃. 意思決定支援 意思決定は誰のもの?. 病院家庭医 新たなSpeciality. 2020年4月 南山堂
3. 濱井彩乃. 編集幹事 治療 診察室でも現場でも実践! スポーツ医学. 2020年5月 vol.102 No. 5 南山堂
4. 岡田唯男. 編集幹事 治療 Nuts and Bolts of Public Health × 総合診療 2020年8月 vol.102 No.8 南山堂
5. 菅長麗依. HIV検診、梅毒検診(RPR法,TPHA法) Medicina 5月号特集 教えて!“健診/検診” ホントのところ～エビデンスを知り何を伝えるか～ 岡田唯男監修 2020/5/18 医学書院

3) 原著論文以外 (総説, Review, Thesis, 依頼論文, コラム, 手紙, 報告など)

1. 濱井彩乃. 「地域医療へのきっぷ 私の資格取得エピソード 第2回 日本医師会健康スポーツ医, 日本スポーツ協会公認スポーツドクター」Gノート 2020年4月 vol.7 No.3 p524-525 羊土社
2. 濱井彩乃. 「プライマリ・ケアスポーツ医学とは」治療 2020年5月 vol.102 No.5 P514-518 南山堂
3. 濱井彩乃. 「アンチ・ドーピング」治療 2020年5月 vol.102 No.5 P542-547 南山堂
4. 近藤慶太, 濱井彩乃. 「労作性熱中症」治療 2020年5月 vol.102 No.5 P556-561 南山堂
5. 岡田唯男. 「コラム:プライマリ・ケアスポーツ医学への期待 家庭医の立場から」治療 2020年5月 vol.102 No.5 P568-569 南山堂
6. 高岡沙知, 濱井彩乃. 「一般健康人への運動処方」治療 2020年5月 vol.102 No.5 P571-575 南山堂
7. 水谷佳敬. 「妊婦への運動処方」治療 2020年5月 vol.102 No.5 P583-589 南山堂
8. 鶴飼 (相田) 万実子. 「地域医療へのきっぷ 私の資格取得エピソード 第3回 障害スポーツ医」Gノート 2020年6月 vol.7 No.4 P674-677 羊土社
9. 金久保祐介. 「ジェネラリストのためのLGBT講座 第4回 医療一般:病院・診療所単位で取り組むべきこと」治療 2020年7月 vol.102 No.7 P908-912 南山堂

10. 岡田唯男. 「家庭医×公衆衛生というキャリアは実現し得るのか？—総活に代えて—」 治療 2020年8月 vol.102 No.8 P1024-1028 南山堂
11. 飯塚玄明, 近藤克則. 「第2章 最新! フレイルの原因と対応のアップデート 9. まちづくり〜フレイル予防のエビデンスから実践まで」 Gノート増刊. フレイル高齢者、これからどう診る?. 2020年9月 vol.7 No.6 P128-137. 羊土社
12. 鶴飼(相田)万実子「第3章 いざ、フレイル健診に該当したらどうするか 6. 運動・転倒」 Gノート増刊. フレイル高齢者、これからどう診る?. 2020年9月 vol.7 No.6 P195-203. 羊土社
13. 進藤達哉. 「在宅中心静脈栄養をうけている意思疎通困難な高齢者に生じたセレン欠乏症による大球性貧血の1例」日本プライマリケア学会雑誌 2020年43巻4号 p. 138-141
14. 進藤達哉. 「この秋冬を健康で乗り切るためのウイルス感染症予防法」 龍野商工会議所 会報市民版SMILE 2020年10月 龍野商工会議所
15. 進藤達哉. 「この秋冬を健康で乗り切るためのウイルス感染症予防法」 龍野商工会議所 会報「龍野」2020年10月号4-8p
16. 岡田唯男. 「意思決定が困難な女性へのケア」 治療 2021年3月 vol.103 No.3 P281-287 南山堂
17. 栗原史帆, 水谷佳敬. 「著しい性器出血」 治療 2021年3月 vol.103 No.3 P361-367 南山堂
18. 岩間秀幸. 「医師に聞く 電話・オンライン診療」 公明新聞 2021年3月7日 公明党機関紙委員会
19. 進藤達哉. 「新型コロナウイルスワクチン特集 私は、絶対にワクチンを接種します」 龍野商工会議所 会報市民版SMILE 2021年3月 龍野商工会議所
20. 西明博, 岡田唯男. 「生活習慣病+フレイル・認知症」 レジデントノート増刊 2021年2月 第22巻 第17号 P122-128 羊土社
21. 久保伸貴, 岡田唯男. 「生活習慣病+運動器疾患・精神疾患」 レジデントノート増刊 2021年2月 第22巻 第17号 P115-121 羊土社
22. 菅長麗依 ケアネット 連載【今知っておきたいワクチンの話】各論 第1回 MRワクチン 2020/6/17
23. 菅長麗依 ケアネット 連載【今知っておきたいワクチンの話】各論 第7回 ジフテリア、百日咳、破傷風 2021/2/15
24. 菅長麗依 Benesse たまひよオンライン 感染症に注目が集まる今だからこそ知っておきたい! 予防接種の正しい知識 2020年5月
25. 菅長麗依 Benesse たまひよオンライン アラフォーは「ぼっちゃり」の方が若く見える? 年齢と体重の関係性 2020年11月8日
26. 菅長麗依 Benesse たまひよオンライン 育児を楽しめないのは私だけ? 同じように悩んだ女医ママがアドバイス 2020年12月
27. 菅長麗依 Benesse たまひよオンライン アラフォー出産のリアル 2021年2月21日

4) 学会、研究会発表

1. 伊豆倉遥. ポスター 大会長賞候補 PA-18 「家庭医がグリーフケアを学ぶことの意義についての質的研究」 第11回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 オンライン 2020年7月23日〜8月31日

2. 高島大樹. 口演 量的研究・混合研究⑦(患者中心の医療、緩和ケア、終末期、メンタルヘルスなど) 0-060「家庭医診療所に通院する患者の「生きがい」と生きづらさに影響する因子の検討」第11回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 オンライン 2020年7月23日～8月31日
3. 高岡沙知. ポスター 活動報告9 予防医療・健康増進② P-活-051「喫煙防止教室における、アンケートを用いた保護者への介入」第11回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 オンライン 2020年7月23日～8月31日
4. 西明博. ポスター 活動報告11 慢性疾患のケア、終末期のケア・在宅 P-活-061「家庭医が担うがんサバイバーシップケア -クリニックで始める前立腺がん術後フォローアップ-」第11回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 オンライン 2020年7月23日～8月31日
5. 高橋亮太. ポスター 活動報告16 卒後・生涯教育 P-活-096「家庭医グループ診療所におけるリサーチフェロープログラムの立ち上げ」第11回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 オンライン 2020年7月23日～8月31日
6. 宮本侑達. ポスター 活動報告20 ICT(Information and Communications Technology)・遠隔医療 P-活-120「家庭医と家族療法家によるオンライン症例検討会の実践報告とその考察」第11回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 オンライン 2020年7月23日～8月31日
7. 近藤慶太. ポスター 活動報告21 幼小児・思春期のケア、SDH P-活-125「中核地域生活支援センターと連携し、SDH教育プログラムを立ち上げた事例」第11回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 オンライン 2020年7月23日～8月31日
8. 坂井雄貴. ポスター 活動報告33 実践報告② P-活-196「家庭医として地域のアドボカシーに関わる-行政と連携した館山市でのLGBT支援活動-」第11回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 オンライン 2020年7月23日～8月31日
9. 河田祥吾. ポスター 活動報告35 災害 P-活-205「透析をおこなう千葉県の診療所における台風被害と対策の報告-2019年台風15号・19号を振り返って-」第11回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 オンライン 2020年7月23日～8月31日
10. 金久保祐介. ポスター 活動報告35 災害 P-活-207「令和元年台風15号・19号に学ぶ災害時の在宅診療の対応」第11回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 オンライン 2020年7月23日～8月31日
11. 岩間秀幸. ポスター 活動報告35 災害 P-活-210「診療所での台風被災・診療の経験～患者・職員・地域を守るためにできること～」第11回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 オンライン 2020年7月23日～8月31日
12. 栗原史帆. ポスター 症例報告9 診断と検査⑤ P-症-553「繰り返し急性上気道炎として診断、加療されていたが適切な性交渉歴の問診で診断に至ったHIV感染症の一例」第11回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 オンライン 2020年7月23日～8月31日
13. 進藤達哉. 口演 尿路感染症 127「有熱性尿路感染症を発症した乳児における尿中亜硝酸塩と膀胱尿管逆流症の関連性」第63回日本感染症学会中日本地方会学術集会 福岡 2020年11月7日

5) 招待講演, ワークショップ, 講師など学術関係

1. 岩間秀幸. 田島明野. 関東甲信越ブロック新専攻医オリエンテーション講師 2020年7月5日

2. 岡田唯男. 教育講演「プライマリ・ケアにおける押さえておきたい古典的文献（第4弾）：2020 Hudson case managementに関するrealist synthesis」第11回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 オンライン 2020年7月23日～8月31日
3. 高橋亮太. 教育講演「プライマリ・ケアにおける押さえておきたい古典的文献（第4弾）：英国家庭診療における患者管理ツールの開発「7Sツール」」第11回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 オンライン 2020年7月23日～8月31日
4. 鵜飼万実子. インタラクティブセッション「リハビリテーション科医とプライマリ・ケア医コラボ企画 素人でも参加できる嚥下障害基本のキ」第11回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 オンライン 2020年7月23日～8月31日
5. 栗原史帆. 岩間秀幸. 西明博. 山田有統. 塚原麻希子. 渡部健. 田坂真哉. 手銭駿. 菊地真由. 堤俊太. WS「亀田流！明日から使える患者中心の医療の方法」第32回学生・研修医のための家庭医療学夏期セミナー オンライン 2020年8月9日～10日
6. 河田祥吾. WS「思春期事例から学ぶライフサイクル」第32回学生・研修医のための家庭医療学夏期セミナー オンライン 2020年8月9日～10日
7. 鵜飼万実子. WS「素人でも分かる嚥下障害とその診察基本のキ」第32回学生・研修医のための家庭医療学夏期セミナー オンライン 2020年8月9日～10日
8. 伊豆倉遙. 西明博. WS「ゲームで学ぶ多職種連携の秘訣！～2020版～」第32回学生・研修医のための家庭医療学夏期セミナー オンライン 2020年8月9日～10日
9. 久保伸貴. 濱田春樹. 高岡沙知. WS「秘伝！家庭医の解決力～君にもできる矢印の魔法～」第32回学生・研修医のための家庭医療学夏期セミナー オンライン 2020年8月9日～10日
10. 岩間秀幸 千葉県医療整備課 自治医科大学・千葉県修学資金生対象 総合診療説明会 講師2020年8月25日
11. 金久保祐介. 坂井雄貴. 一般社団法人にじいろドクターズ オンラインセミナー「明日から使える！医療介護に携わる人のためのLGBT基礎講座」2020年9月27日
12. 進藤達哉. 新型コロナウイルス感染症 ～最新の知見を踏まえた感染対策～ 第181回揖龍地区薬剤師研修会 2020年11月5日
13. 岡田唯男. 講演「ティーチング・パールを創る」令和2年度神戸大学医師臨床研修指導医講習会 オンライン 2020年11月13日
14. 金久保祐介. 講演「LGBTについて学ぼう～医療従事者が明日からできること～」プライマリ・ケア認定薬剤師研修会 東京 2020年11月23日
15. 鵜飼（相田）万実子 Primary Care Research (PCR) Connect第2回年次集会「研究計画Evolution」2020年12月19日オンライン
16. 鵜飼（相田）万実子 JAPEPスタートアップセミナー「リハビリテーション」 オンライン 2020年12月26日
17. 鵜飼（相田）万実子 WS「リハビリテーション科医×プライマリケア医のコラボ企画 活動を診る！ICFで考えるリハビリテーション」第16回若手医師のための家庭医療学冬期セミナー オンライン 2021年2月6日
18. 近藤慶太. 特別企画「今日から始めたい！2020年度のリアルなオンライン活用術×家庭医」第16回 若手医師のための家庭医療学冬期セミナー オンライン 2021年2月7日

19. 河田祥吾. WS「家族療法家と学ぶ「コミュニケーションスキル」ブートキャンプ」第16回 若手医師のための家庭医療学冬期セミナー オンライン 2021年2月7日
20. 西明博, 高岡沙知, 菊地真由. WS「フェーズで関わる！総合診療医のがん診療 ～あなたの患者ががんになったらできる10のこと～」第16回 若手医師のための家庭医療学冬期セミナー オンライン 2021年2月7日
21. 金久保祐介, 坂井雄貴. VOD-15 「LGBTから考えるSDH～明日の診療から始めるアドボカシー活動～」第16回若手医師のための家庭医療学冬期セミナー オンライン 2021年2月6日
22. 岩間秀幸. 講演「亀田式ポートフォリオの作り方」群馬家庭医療学センター レジデント・デイ オンライン 2021年2月20日
23. 菅長麗依 ” オンライン体験版 ワクチン虎の穴「キャッチアップをマスターしよう」” 日本プライマリケア学会 予防医療・健康増進委員会 ワクチンチーム 2020年10月4日
24. 菅長麗依. 適々齋塾 Women's health seminar 講師 「性感染症」「女性のワクチン」「月経困難症と月経前症候群」オンライン 2021年1月30-31日

6)その他

*受賞、助成金獲得など

1. 第11回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 学術大会長賞 伊豆倉遙
2. 亀田総合病院 2020年度家庭医診療科内BEST指導医 岩間秀幸
3. 安房地域医療センター teacher of the year award 岩間秀幸
4. 安房地域医療センター teacher of the year award 伊豆倉遙

*委嘱事業

1. 岡田唯男. 臨床教授 東京医科歯科大学 2020年度
2. 岡田唯男. 臨床教授 千葉大学 2020年度
3. 岡田唯男. 客員教授 聖マリアンナ医科大学 内科学（総合診療内科） 2020年度
4. 岡田唯男. 客員准教授 東海大学 2020年度
5. 岡田唯男. 嘱託講師 島根大学医学部 入門 2020年度
6. 岡田唯男. 非常勤講師 千葉大学医学部 医療経済情報学 2020年度
7. 岡田唯男. 非常勤講師 日本医科大学医学部 総合診療入門 2020年度
8. 岡田唯男. 非常勤講師 秋田大学医学部 臨床検査と診断学 2020年度
9. 西山新治(R). 特別非常勤講師 安房特別支援学校 2020年度
10. 岩間秀幸. 千葉県医師キャリアサポーター 2020年度
11. 岡田唯男. 学校医 館山市立北条小学校 2020年度
12. 岡田唯男. 学校医 千葉県立館山総合高等学校 2020年度
13. 岩間秀幸. 学校医 館山市立館野小学校 2020年度
14. 河田祥吾. 学校医 館山市立館山小学校 2020年度
15. 宮本侑達. 学校医 館山市立房南中学校 2020年度
16. 岡田唯男. 見学実習担当指導医 日本プライマリ・ケア連合学会 プライマリ・ケア認定薬剤師制度 2017年9月～2022年8月

*座長、大会長、司会、パネリストなど

1. 岡田唯男. 座長「プライマリ・ケアにおける押さえておきたい古典的文献（第4弾）」教育講演 第11回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 オンライン 2020年7月23日～8月31日
2. 岩間秀幸. 副座長 運営委員 日本プライマリ・ケア連合学会関東甲信越ブロック千葉県支部例会2020年11月3日

*面接官、試験官など（依頼）

1.

*取材・メディアなど

1. 岩間秀幸. 「コロナで制約を強いられる在宅・地域医療の今」Wedge 2020年5月 ウェッジ
2. 進藤達哉. 産経新聞 2020年9月24日, 朝刊, 24面.
3. 進藤達哉. 神戸新聞 2020年10月23日, 朝刊, 26面.
4. 岡田唯男. YouTube 千葉医師研修支援ネットワーク「1「総合診療医という生き方」篇」2021年3月
5. 栗原史帆. YouTube 千葉医師研修支援ネットワーク「2「千葉で医療を学ぶ意味」篇」2021年3月
6. 栗原史帆. YouTube 千葉医師研修支援ネットワーク「3「人を診る医療の無限の可能性」篇」2021年3月
7. 栗原史帆. YouTube 千葉医師研修支援ネットワーク「「総合診療医への道」千葉大学附属病院」2021年3月
8. 岡田唯男. 栗原史帆. YouTube 千葉医師研修支援ネットワーク「「総合診療医・家庭医への道」亀田ファミリークリニック館山」2021年3月

*一般向け講演、指導、健康教室（Sはスポーツ医としての依頼、Nは看護師、Rはりハビリ、その他は医師）

1. 千葉県安房特別支援学校 小池沙織(R) 年6回、荒牧奈緒美(R) 年3回…自立活動の指導助言
2. 千葉県安房特別支援学校 指導医 医療的ケアの指導 年6回
3. 河田祥吾. 進藤達哉. 林寧. 篠崎萌. 瀬口京介. 健康教室「性感染症予防について」南房総市立千倉中学校 3年生生徒 2020年7月3日
4. 進藤達哉. 岩間秀幸. 講師「それって本当に風邪ですか？」千葉県立安房特別支援学校 職員 2020年8月26日
5. 久保伸貴. 塚原麻希子. 西明博. 斉藤聡大. 木口詩苑. 健康教室「多様な性について考えよう」館山市立那古小学校 6年生生徒 2020年9月11日
6. 金久保祐介. 講演 「メディカルサイエンス」江戸川学園取手高等学校 医科コース1～3年生生徒 2020年9月18日・11月20日
7. 河田祥吾. 渡部健. 濱田春樹. 飯塚玄明. 健康教室「禁煙について」海上技術学校 2020年10月6日
8. 岩間秀幸. 神田圭輔. 長嶋友希. 健康教室「がんについて」館山市立房南中学校 1年生生徒 2020年10月21日
9. 金久保祐介. 高島大樹. 小森宏太郎. 健康教室「エイズ、性感染症の予防について」南房総市立嶺南中学校 3年生生徒 2020年10月27日

10. 田島明野. 濱田春樹. 手銭駿. 吉田沙生. 健康教室「性教育」館山市立第一中学校 1年生
生徒 2020年11月9日
11. 河田祥吾. 進藤達哉. 山田有統. 西方一将. 健康教室「感染症予防教室 ～ withコロナっ
てなんだろう?～」南房総市立白浜中学校 全校生徒 2020年11月17日
12. 久保伸貴. 栗原史帆. 森川敬太. 青島あずさ. 健康教室「喫煙予防教室」館山市立那古小
学校 5年生生徒 2020年12月18日
13. 近藤慶太. 飯塚玄明. 原田俊介. 安永光毅. 健康教室「薬物乱用防止」南房総市立三芳小
学校 6年生生徒 2020年1月27日 (←こちらはCOVI-19のため中止になりました. 飯塚追記)
14. 進藤達哉. 「経営者に求められる感染症の知識と決断力」龍野商工会議所 感染対策講演会 20
20年8月7日
15. 進藤達哉. 「新型コロナウイルスワクチン Q and A」医療法人 八女発心会 姫野病院 職員 2
021年2月26日

*スポーツイベント帯同 大会ドクター及びマッチドクター

1.

*地域イベントへの参加 (地域連携)

1.

-----以上-----